

<p>【めざす学校像】 ○子どもと教師が輝く学校 ○確かな学びを保证する学校</p> <p>【めざす児童像】 ★たのしくまなぶ子ども (自ら学ぶ) ★すすんでつながる子ども (豊かな心) ★ひとのためにうごく子ども (たくましく生きる)【めざす学校像】</p>	<p>学校 経 営 方 針</p>	<p>本校は、法令や学習指導要領の趣旨を受け、県・市の教育方針に則り、地域や児童の実態及び教育の今日的課題と保護者や地域の願いを踏まえ、社会の変化に主体的に対応できる確かな学力・豊かな人間性・健康と体力を持つ児童の育成に努める。そのため、全教職員は、その使命と責任を自覚し、家庭・地域と連携し、学校が担う教育的役割を十分に果たし、日々の実践に真摯に努める。</p>
<p>自校の現状</p> <p>○子どもたちは、大変素直で明るい学校生活を送っている。 ○家庭・地域の協力体制は整っており、行事等への参加も多い。 ●心のこもったあいさつや時と場に応じた人権意識のある言葉遣いの指導が求められる。 ●「よいこと貯金」に取り組み、児童の主体性を高めている。 ●生活習慣が乱れがちな児童が数名おり、保護者と連携した児童への啓発が必要。 ●特別な支援を要する児童へのチームとしての対応が求められる。</p>	<p>重 点 努 力 目 標</p>	<p>○読書タイムの充実と活字に親しむ時間の拡張 ○「めあて」と「まとめ」が心に響く授業の実施 ○個別最適化の授業(タブレットは文房具) ○対話的な授業の深化 ○読書習慣の定着と学校図書館の利活用 ○児童会活動と連動したあいさつ運動の重点化 ○全職員で全児童を育てる…情報共有による校内支援体制の確立 ○全員遊び及び縦割り活動の実施 ○食育を柱とした生活科・総合的な学習の充実 ○早寝・早起き・朝ごはんの取組 ○よいこと貯金の奨励 ○家庭教育の充実</p>

領域	重点 度 番 号	評価項目(努力事項)	達成度	自己評価		学校関係者評価	
				成果 又は 課題	評価	意見・助言等	評価
学校教育活動の改善と充実	★①	学校は、一人一人の子どもの特性に応じた支援を工夫しながら、わかりやすい授業を展開している。	◎	【肯定的評価平均98.0%(R5.1月より↑0.4)】学力向上に向けての深め合う授業づくり及び児童の困り感や特性を踏まえた支援に関して職員間で情報交換を充実させている。		<p>○⑥番の項目に「食育を柱とした」とあるが実際どういった学習活動を予定されているのか。 ⇒最終的にはふるさと教育の一環として、子どもたちがふるさとのよさや魅力を学び、体験する活動にしたい。具体的には、瑞穂町で盛んな産業を体験したり、そこに携わる方々の話を直接聞いたりしながら、食の大切さを学ぶ活動にしていきたい。体験させたい野菜作りとして、じゃがいも・お茶・人参・稲作・大豆など。その他にも栽培が可能な作物があれば子どもたちに栽培させていく。 ○子どもたちが責任をもって何かを育てるという活動は大変よいことで生きる力に直結すると感じます。大豆製品もいろいろ可能性が広がりますね。 ○メディアに接する時間が増えていることは事実ですね。だからこそ子どもたちが竹トンボや竹馬、水鉄砲などの昔遊びを体験することは意義のあることです。以前に比べると地域との交流の機会も少なくなってきたことが残念です。地域の人も子どもたちも、お互いのことを知るために交流は増やしていく必要があると思います。</p>	B
	★②	学校は、学習規律の定着を図りながら、日常の授業における主体的・対話的で深い学びを実現している。	○	【肯定的評価平均93.8%(↓2.7)】タブレットの活用は充実してきたが、学習規律の定着に課題が残る。OJTIによる若手職員育成に今後も必要である。			
	③	学校は、学力向上に向けた工夫ある取組(PDCAサイクル)を実践している。	○	【肯定的評価平均90.9%(↓4.1)】校内研修で学力調査分析による授業改善を継続している。読解力向上を踏まえた問題解決力を授業の中で培う必要がある。			
	④	学校は、読書に親しむ対策を充実させている。	○	【肯定的評価平均89.5%(↓0.8)】読書タイムを拡張させた。児童が主体的に本に親しむ機会を計画しているのので、今後は各学年での工夫が必要である。			
	★⑤	学校は、保護者と連携し、児童の家庭学習の習慣づくりの対策を充実させている。	△	【肯定的評価平均87.7%(↓10.7)】メディア利用と家庭学習をバランスよくしていくことが難しい。家庭での生活リズムを今後も児童自ら改善していくよう保護者と連携が必要である。			
	★⑥	学校は、食育を柱としたカリキュラムマネジメントや特別活動の内容を工夫しながら、児童の主体性を引き出す、より効果的な教育活動を展開しているか。	◎	【肯定的評価平均100%(↑2.8)】1学期の期間中、全職員で総合的な学習の内容を修正した。本年度の学習発表会に向けて地域と連携した生きた学びの実現に向けて計画を全職員で実践していく。			
安全・安心な学校づくりの推進	①	学校は、道徳教育を推進し、いじめ根絶を図っているか。(豊かな心の育成といじめ見逃しゼロ)	◎	【肯定的評価平均96.6%(↑5.7)】1学期のいじめ認知件数は1件。昨年度よりも減っているが小さいトラブルは頻発している。今後も早期発見と早期解決を進めていく。		<p>○いじめ防止への取り組みはこれまでの取組を継続して未然防止に努めていってほしいです。 ○あいさつをできない子は周りの人とコミュニケーションが苦手なので、友達とのトラブルも多くなるのではないかと感じます。あいさつをできる子にしていきたいですね。 ○集団で活動している場で子どものマナーが悪いときに親が注意しないのが気になる。迷惑をかけてはいけないことはしっかり教えないといけない。 ○横断歩道でのあいさつはよくできる子が増えていると思います。まずは大人からあいさつをやっていくことが大切です。子どもからの返ってこなくてもいい。大人が見本を見せて意識をもってほしい。 ○大人から子どもたちに話しかけるべき。不審者対応訓練のあり方も検討が必要ですね。 ○もっと地域同士が顔見知りになるようなきっかけが必要です。</p>	B
	★②	児童は学校や地域で心のこもったあいさつができていますか。	△	【肯定的評価平均85.4%(↓11.0)】職員への挨拶は習慣化されているが、遠くからでも、相手の顔を見てなどの具体的な質の高まりが今後必要である。			
	③	学校は家庭と連携し、児童の命を第一に考えた指導を行っているか。	◎	【肯定的評価平均95.2%(↓1.4)】集団登校と下校のマナーや交通安全の旗の使い方を具体的に指導した。班長の意識は高まったが地区によってはまだ指導が必要な班がある。			
	★④	学校と家庭は相互連携し、「雲仙市統一ルール」の定着とよい生活習慣づくりを図っているか。	△	【肯定的評価平均84.6%(↑2.3)】統一ルールに関しては保護者の達成評価が62.3と極端に低い。メディアコントロールできる児童もいるが、家庭で9時以降にメディアに触れる児童も依然多い。			
	★⑤	学校は家庭と連携し、「ふわふわ言葉」を使う人権意識の高い児童の育成に努めているか。	△	【肯定的評価平均82.6%(↑4.9)】昨年度1月よりもアップしているが目標値以下である。人を大事にする教育がふわふわ言葉の増加につながると考える。できている児童を称賛しながら今後も啓発していく。			
	★⑥	学校は、人のために動く児童を育成しているか。	◎	【肯定的評価平均94.6%(↓0.5)】職員は常に子どもの善行を認め情報共有している。今後も子どもの善行と積極的に褒め、周囲のために役立つ喜びを実感させていく。			
働き方改革の推進	★①	教職員は校務の効率化を図り、児童としっかりと向き合う指導や教育活動を行っているか。	◎	【肯定的評価平均94.5%(↓5.5)】業務の効率化の動きは高まっている。今後も業務内容の精選を行っていく。		<p>○子ども先生方も健康的な生活を送ることは大前提だと感じます。先生方にはいつも生き生きしてほしい。そういう意味では取組の成果が現れているのではないのでしょうか。 ○朝の交通指導で子どもの様子を見てみると、元気のない子供が気になる。家庭でしっかり寝せて、しっかり朝ご飯を食べさせてほしい。 ○学校が地域の人に学ぶ機会を増やしていくのであれば、老人会とのふれあいの機会をどんどん増やしてほしい。 ○PTA活動への保護者の参画意識は高いと感じます。大正小学校PTAのよさではないかと思えます。</p>	A
	★②	報連相を実践しながらチームで対応する、働きがいを感じる職場となっているか。	◎	【肯定的評価平均100%(同じ)】常に職員室で情報交換し、相談内容によって対応を協議し、チームによる早めの対応を図っている。			
	③	教職員の勤務時間管理の徹底(適正な勤務時間管理、年次休暇取得促進)	○	【4~7月45時間超え:2名】教務と教頭の45時間超勤があった。ノー残業デーを週1回設定し、遅くとも18時15分までには全員退庁をするようにしている。			
	★④	学校は地域と連携し、ふるさとの魅力を体験する探究的な学習を積極的に行っている。(学校・家庭・地域の連携強化)	◎	【肯定的評価平均96.5%(0)】2学期の学習発表会に向けて地域との連携を具体的に進めている。			
	⑤	教職員や保護者は地域活動やPTA活動に積極的に協力しているか。	◎	【肯定的評価平均100%】授業参観・学級部会への参加率も高い。保護者と学校職員のコミュニケーションの場も増え、活動も充実してきた。			

※1 重点努力目標に関わる評価項目に★をつける。  
 ※2 各評価項目の達成度、指標をもとに、◎(十分に達成できた)、○(概ね達成できた)、△(あまり達成できなかった)、▲(全く達成できなかった)で評価する。  
 ※3 各領域全体を、評価項目の達成度をもとに、A(十分に達成できた)、B(概ね達成できた)、C(あまり達成できなかった)、D(全く達成できなかった)で評価する。  
 ※4 学校関係者評価として、A(十分に達成できている)、B(概ね達成できている)、C(あまり達成できていない)、D(全く達成できていない)で評価する。